

Bluff Archives Monthly News

2019年8月

発行 NPO 法人横浜山手アーカイブス

「山手 234 番館」での検挙・抑留

8月15日は、終戦記念日。1945年から数えて今年
は74年目にあたる。我が国が第二次世界大戦に参戦した
真珠湾攻撃は、1941年12月8日。この日に、現在山
手西洋館として残る「山手 234 番館」で起きた居留外国
人検挙・抑留の様子を残しておきたい。この記録は、息子フ
レデリックに宛てた手紙を後年、フレデリック氏が一族の記録
としてまとめたものの一部である。

1941年12月、Cyril Montague Birnie（シビル・モ
ンタグュー・バーニー）と Nell（ネル）は横浜のフラット¹に
住んでいました。バーニーは73才、ネルは52才でした。事
態が容易ではないという警告を最初に受け取ったのは12月
8日の午前8時半の事でした。この話は、ローレンソマルケ
ス、後に中立港であったポルトガル領東アフリカで書かれたネ
ルからフレッド宛の手紙に書かれている。後に彼等は、当時
世界中にいて日本に帰国されることを許された日本人と、国
際赤十字社を通して「交換」²された。手紙の日付は1942
年10月4日となっている。 1 山手 234 番館 2 日英交換船

「この手紙は、上陸後に書きました。そのわけは、捕虜の交
換が、当地で現実に、そして最終的に終わる迄、捕虜達は
釈放されなかったので、引揚船の上で書くのは危険だと考え
たからです。手書き印刷問わず、書物は一切日本から持ち
出せず、私達の荷物は搜索されるものと考えていました。

…12月8日の午後8時半頃、3人の男達がフラットにや
ってきました。制服姿の憲兵と続いて私服の2人で1人は
刑事、もう1人は通訳でした。通訳は丁寧な口調でバーニ
ーに直ちに憲兵隊に出頭するよう要請しました。バーニーは
「いいですとも。所で目的は何ですか？」と答えました。それ
に対する答えは一つ。「私達は貴方の身体検査したいのです。
すぐに貴方の部屋に行ってください。」でした。私達5人はバ
ーニーの部屋へ行き、2人の私服姿が作業（身体検査）

を進めているうちに、憲兵は力づくで机をこじ開け、必要と思
われる書類をくり上げました。

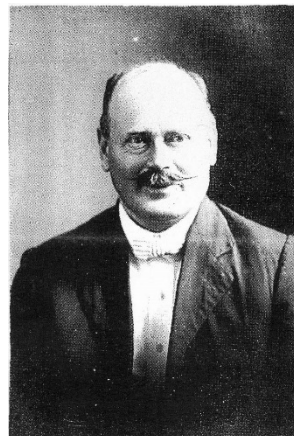
…バーニーが身仕度を整えると、何と彼等はバーニーの手
に細紐をかけたのです！バーニーは毅然としていました。私は
涙も出ませんでした。彼は私に『これは必要書類を破った
り、薬を飲んだりしないようにするためだ』と申しました。日
本では囚人の手を後でしばる事がありますが、私は憲兵にそ
れはしないように、頼みました。

…バーニーは始めに私の小部屋に連れて行かれ、それから
居間の方に連れて行かれました。その間、搜索は続きました。
私はバーニーにウイスキーを飲ませることを許されました。それ
から彼等は、『心配はないから』と云い、乍らバーニーを連れ
去りました。

…階下に住んでいたイタリー人の隣人が私を彼女のフラット
に連れて行ってくれ、そこで私は私達の国が宣戦を布告した
のを知りました。（バーニーはその事を10日間、知らされま
せませんでした）

…私は領事館へ行きましたが、閉まっていました。それでも、
外の門から中へ入り、領事と2分間だけ話す事ができまし
た。殆ど同時に15人程の私服姿の人たちが到着し、文字
通り私達を建物の中に閉じ込め、搜索を行いました。2時
間後—そろそろ1時になっていましたが—彼らは作業を切り
上げ、全員をブラフ（山手）に追い立て収容しました。

（後略）」 （翻訳：布袋勇治）



Cyril Montague Birnie

1868-1958

最晩年は山手 217 番地に暮
らし、外国人墓地 4 区に眠る。
別荘のあった箱根町では毎年
4月「ケンペル・バーニー祭」を開
催し、彼を顕彰している。